

2007年問題ではなく、2007年慶事です

世間では、2007年問題として、今年から3年間に退職する団塊の世代の影響を心配しています。たしかに、現在の就労人口の約7%とも10%ともいわれる大量の人が定年を迎えるのですから、その後の人員不足が心配されるのは理解できます。

先日、あるスーパーの中の旅行取り扱いコーナーの前を通りますと、説明を聞いたりパンフレットを探したりしている高齢者が多くいらっしゃいました。この様子から、「定年職を機会に海外旅行を」と考えている人が多いような気がします。

でも、この旅行する人が多くいらっしゃる現状は、問題ではなくむしろ慶事ではありませんか。

退職金を元に、海外旅行し、家を建て、リフォームをし、

趣味の習い事に精を出し、等々消費行動が、もう始まっているのです。

テレビ報道によりますと、陶芸を趣味とする人向けのロクロが販売されているらしい。しかも、価格は1万円超程度であるとか。趣味で陶芸している人は、ロクロや窯を自前で持つことが夢だと聞いたことがあります。しかし、従来のロクロや窯は高く趣味に使う道具としては簡単に買えない価格でありましたが、ロクロのみで1万円少々では、誰でも買えるのではないのでしょうか。

このように見れば、2007年問題は、すでに慶事へ転換されつつあると言えましょう。

工場などにも2007年慶事がありますか？

旅行業界や建設業や趣味の世界はともかく、「我が製造業の場合には慶事はありません。問題ばかりです」という声も出そうですが、製造業をはじめ、その他の業界では問題ですか？

そのようにお考えの経営者の皆様だったら、高齢者についての誤解を解くことが求められます。高齢者のパワーを活かして発展する方法とすると、独立法人高齢・障害者雇用支援機構がまとめたものを披露申し上げます。

特定の（今まで経験してきた）領域の能力は、加齢と共に拡大・高度化します。特定領域の業務に関する知識・技術・技能は、次の3ステップにより強化されるのです。このことを多くの経営者は認識していません。

第一ステップは、知識や技能を学習することです。誤解している経営者の多くは、学習する機会を与えていないことが多いのです。

第二ステップは、知識や技能を仕事に活かして成果を上げることです。勉強しても仕事の上で活かしていない人がいます。それは、原則論を勉強してきても自社の仕事に応用できない人が多いからです。経営者として、試行錯誤する時間を与え、仕事に活かすことを奨励せねばなりません。

第三ステップは、成果を報告書やマニュアルなどとして、整理することです。これも、ほとんどの企業では実行していません。

高齢者でも、三つのステップを踏んで、必要なことをやれば、能力は拡大・高度化することを経営者は認識せねばなりません。

高齢者は最適能力が高いのです。ここで、最適能力とは、多くの利害関係者が満足できる能力を言います。具体的な例を出しますと、当社の営業マンが得意先で他社の営業マンと競合になりました。若い営業マンの場合は、「他社の営業マンと競争し、なんとしてもわが社で受注できるように」頑張ります。

でも、ベテランの場合には、他社の営業マンと取り扱い商品などの分割交渉をして、応分の売上高を確保することが出来るようになります。

社内での意見相違なども、双方の顔が立つように調整する能力なども持っています。

加齢による能力の低下の誤解にとらわれないことです。高齢者の能力が低下してくると思われています。それは、脳を使用しないから起きる現象です。脳を活性化するゲームや本が売られているのは、このためです。ゲームでも何でもよろしいから、脳を使えば高齢者でも能力の低下は防げるのです。

